お手入れ方法

- ◆ 本製品の布織物製構成部品(「背面プレート」(A)を取り外したその他の部品)のみが手洗い可能であることを装着者へ説明してください。洗濯の際には、30℃以下の水と中性洗剤で丁寧に布織物製構成部品を手洗いしてください。
- ◆ 手洗いの際、全ての「磁石付バックル」(G)、「面ファスナーストラップ」(H)を閉じてください。
- ◆ 「背面プレート」(A)に取り付けられた、「背面パッド」(B)、「肩ストラップベルト」(C)、「胴ストラップベルト」(D)を全て取り外してください。
- ◆ 乾燥は日陰のつり干しとし、直射日光にはさらさないでください。また塩素系漂白剤、洗濯機、脱水機、乾燥機、アイロン、ドライクリーニングなどは使用しないでください。
- ◆ 「背面プレート」(A)が汚れてしまった場合は、布などで水拭きしてください。
- ◆ 陰干し後、再び、すべての部材を取り付けます。「背面プレート」(A)に「背面パッド」(B)を取り付け、「肩ストラップベルト」(C)、「胴ストラップベルト」(D)を番号順に取り付けます。

使用上の制限

- ◆ 本製品は、皮膚状態が良好な方お一人に対してのみ使用してください。同一品を他の方が使用されることにより、製品の衛生状態を損なう恐れがあります。
繰り返しの加工を行うことにより、金属素材の疲労、劣化が起こる可能性があります。これは肉眼では見えない細かなヒビも含まれます。
- ◆ 使用時間、期間などは医師の指示に従ってください。

お問い合わせ窓口:

輸入元: オットーボック・ジャパン株式会社
〒108-0023　東京都港区芝浦 4-4-44 横河ビル 8F

O-IFU-50R20-201212-SPR

50R20 ドルソ　オステオ　ケア

取扱説明書

義肢装具士の方へ

本製品を安全にお取扱いいただくために、使用前に本取扱説明書をお読みください。また、必要な際に参照できるようお手元に保管してください。
装着者の方へ、装着方法、使用上の注意、お手入れ方法などをご案内ください。

使用目的

『50R20 ドルソ　オステオ　ケア』胸椎装具は、体幹(創傷の無い皮膚状態)の姿勢保持や保護に限って使用されます。

適応・用途

脊柱の胸部と腰部領域における、骨粗鬆症による脊椎の変性、脊椎椎体骨折後の処置など。
本製品は骨粗鬆症の状態において筋活動を行うことができ、筋増加をサポートします。
適応については、必ず医師の診断を受けてください。上半身は肩甲帯と腹部を後部へ引くことにより、直立した姿勢を保ちます。
これはストラップベルトと背面プレートを設定することで行います。呼吸時、胸部や腹部に対する負担をかけず、背面の筋を活動させます。

サイズの選択

本製品は下記 2 種のサイズより選択することができます。
体幹の 2 ヶ所(第 7 頸椎の 3cm 下、臀溝の 2cm 上)間の寸法を測定し、適切なサイズを選択します。

商品 No.	種類	規格 体幹測定位置:第 7 頸椎の 3cm 下～臀溝の 2cm 上
50R20=S	S	39.0～41.5cm
50R20=M	M	42.0～44.5cm

構造および構成部品
<構成部品(図1-3)>

(A) 背面プレート	(G)磁石付バックル
(B) 背面パッド	(H)面ファスナーストラップ
(C) 肩ストラップベルト	(I)プラスチックループカン
(D) 胴ストラップベルト	(J)クリップタイプリベット
(E) 腹部押さえ	(K)胴バックル
(F) 面ファスナーパッド	(L)胴バックル用パッド(接着テープ付)

構造(図1-3)

◆ 本製品は、正しく装着できるよう構成されています。
◆ 「背面プレート」(A)は表面塗装処理されたアルミニウム製で、必要に応じて簡便に調整ができます。
◆ 「背面パッド」(B)は立体編み素材を使用しており、通気性に優れ肌に優しく、手洗いが可能です。
◆ 「肩ストラップベルト」(C)は「プラスチックループカン」(I)を用い、「背面プレート」(A)の1～4の部位に接続します。
◆ ストラップベルトにはソフトな起毛素材を用い、腋窩の範囲に緩衝性を持たせた半伸縮性のある立体編み構成となっています。
◆ 「肩ストラップベルト」(C)は「磁石付バックル」(G)を用い、簡便、確実に体幹正面位置で留めることができます。
◆ 立体編み素材で構成されている「腹部押さえ」(E)は、「胴ストラップベルト」(D)を通して「背面プレート」(A)の5～8の部位に接続します。

調整方法

◆ 本製品をはじめて装着される際には、必ず医師、義肢装具士による調整が必要になります。
①(図7)「背面プレート」(A)は、工具を使用せず常温状態で成型加工することができます。
②「背面プレート」(A)を手成型するために、「背面パッド」(B)、「肩ストラップベルト」(C)、「胴ストラップベルト」(D)を「背面プレート」(A)から取り外します。
③ 指定されたサイズ測定位置(第 7 頸椎の 3cm 下～臀溝の 2cm 上)を確認しながら、「背面プレート」(A)を正確に脊柱の彎曲に合わせて加工してください。 パッドの圧迫は開口部で回避することができます。
④ その後、「背面パッド」(B)を取り付け、番号順にバックル1～4に「肩ストラップベルト」(C)を留め、そして5～8のバックルに「胴ストラップベルト」(D)を留めてください。

装着方法

① 本体を、リュックサックを背負うようにして着用します(図4)。
② 「肩ストラップベルト」(C)の「磁石付バックル」(G)と、「腹部押さえ」(E)の片側(左側もしくは右側のどちらか)にある面ファスナーを外してください。
③ 本体を背負った状態で、背中に沿わせるように「背面プレート」(A)、「背面パッド」(B)、を引き上げます。「腹部押さえ」(E)を腹部の中央に位置させ、面ファスナーを留めます(図5)。その後胸部の下で「磁石付バックル」(G)を留めます(図6)。
④ 面ファスナーを用い、「肩ストラップベルト」(C)と「胴ストラップベルト」(D)の長さを調整してください。「肩ストラップベルト」(C)は「磁石付バックル」(G)を一旦取り外した状態で長さ調整が可能です(図8)。その後再度「磁石付バックル」(G)を留めてください。また「磁石付バックル」(G)は必ず体幹の中央位置で留めてください。
⑤ 動作に制限のある装着者が、簡単に本体を装着できるように、付属の「胴バックル」(K)を取り付けることができます。
⑥ 「背面プレート」(A)から「肩ストラップベルト」(C)の3、4のバックルを外します。3、4の番号順に「胴バックル」(K)を「背面プレート」(A)に取り付けます(図9)。付属の「胴バックル用パッド(接着テープ付)」(L)を「胴バックル」(K)に接着させ、それに応じて体幹に沿わせるよう調整をしてください。「肩ストラップベルト」(C)の3、4のバックルにそれらを留めます(図 10)。
⑦ 「肩ストラップベルト」(C)を締め過ぎないよう、注意してください。「肩ストラップベルト」(C)と肩との間に指が入る程度の具合にしてください。腹部中央の「腹部押さえ」(E)を締め付けるように、適宜「胴ストラップベルト」(D)の長さを調整してください。「胴ストラップベルト」(D)は捻らないようにしてください。

脱着方法

① (図 11)装着適合の確認後、「面ファスナーパッド」(F)を「クリップタイプリベット」(J)に交換してください。交換するためには工具を使用せず「肩ストラップベルト」(C)、「胴ストラップベルト」(D)をクリップ留めしてください。
② 「肩ストラップベルト」(C)の1～4用、「胴ストラップベルト」(D)の7、8用には大きな「クリップタイプリベット」(J)を、「胴ストラップベルト」(D)の5、6用には小さな「クリップタイプリベット」(J)を使用してください。

◆ 本体の簡単な着脱方法を装着者に説明してください。必要に応じて着脱方法を指導してください。

装着に伴う影響

注意!
本体が必要以上の力で締め付つけ装着された場合、過剰な圧迫が加わり周辺の血管や神経の機能を阻害する恐れがありますので、身体に合った適切なサイズを選択してください。

禁忌事項

注意!
◆ 以下の疾患および症状を伴う場合は、本品を装着する前に必ず医師に相談してください。
◆ サポーターを装着される部位の皮膚疾患、異常および損傷、または炎症等が見られる場合。
◆ サポーター装着部位から離れた場所に、不明瞭な浮腫などを含むリンパ管の流れに対する異常が見られる場合。
◆ 上肢の循環器系および知覚異常が見られる場合。

注意事項

◆ 本装具の有効性を発揮するため、装具は常に快適に装着される必要があります。
◆ また装具装着に対する患者の同意と協力は、適正な装着、定期的な診断および装具の調整に伴う有効性において重要となります。装具の使用に関しては医師や義肢装具士の指示に従ってください。
◆ 本製品の主要な機能を装着者に理解させることは非常に重要です。必ず装着内容について患者への説明を行ってください。
◆ 本製品の調整以外の加工、改造、修正は行わないでください。
◆ T シャツまたはアンダーウェアを着用の上で本体を装着することをお勧めします。
◆ 1 日の使用時間および長期に渡る使用期間は、医師の指示従ってください。医師からの特別な指示が無い場合、筋活動量回復のため 1 日の使用時間は1～2 時間にすることお勧めします。
◆ 医師の指示により着用時間を延長することができます。
◆ 必要に応じて、義肢装具士による本体の再調整をおこなってください。
◆ 長時間の座位および臥床する際、本体を外してください。
◆ 装着中に「背面プレート」(A)が上下に移動し、ズレが生じる場合正しい位置に戻し調整してください。
◆ 装着前、もしくは装着により異常な症状が見られる場合には、使用を中止し、直ちに医師に相談してください。